2級土木実地問題 「安全管理」

会社名	氏名	FAX番号	メールアドレス

【問題 1】 あなたが経験した土木工事の現場において、工夫した安全管理を1つ選び、次の〔設問 1〕，〔設問 2〕に答えなさい。

〔注意〕 あなたが経験した工事でないことが判明した場合は失格となります。

〔設問 1〕 あなたが経験した土木工事に関し、次の事項について解答欄に明確に記入しなさい。

〔注意〕 「経験した土木工事」は、あなたが工事請負者の技術者の場合は、あなたの所属会社が受注した工事内容について記述してください。従って、あなたの所属会社が二次下請業者の場合は、発注者名は一次下請業者名となります。なお、あなたの所属が発注機関の場合の発注者名は、所属機関名となります。

(1) 工事名

(2) 工事の内容

① 発注者名

② 工事場所

③ 工期

④ 主な工種

⑤ 施工量

(3) 工事現場における施工管理上のあなたの立場

2級土木	氏 名
安全管理	

〔設問 2〕 上記工事で実施した「現場で工夫した安全管理又」を選び、次の事項について解答欄に具体的に記述しなさい。
ただし、交通誘導員の配置に関する記述は除く。

- (1) 特に留意した**技術的課題**
- (2) 技術的課題を解決するために**検討した項目と検討理由及び検討内容**
- (3) 上記の結果**現場で実施した対応処置とその評価**

(1)具体的な現場状況と特に留意した技術的課題 (7行)

添削者記入欄

2級土木	氏 名
安全管理	

(2) 技術的課題を解決するために検討した項目と検討理由及び検討内容 (9行)

添削者記入欄

2級土木	氏 名
安全管理	

(3) 技術的課題に対して現場で実施した対応処置とその評価 (9行)

添削者記入欄

2級土木実地問題 「安全管理」参考記述例

会社名	氏名	FAX番号	メールアドレス

【問題1】 あなたが経験した土木工事の現場において、工夫した安全管理を1つ選び、次の〔設問1〕，〔設問2〕に答えなさい。

〔注意〕 あなたが経験した工事でないことが判明した場合は失格となります。

〔設問1〕 あなたが経験した土木工事に関し、次の事項について解答欄に明確に記入しなさい。

〔注意〕 「経験した土木工事」は、あなたが工事請負者の技術者の場合は、あなたの所属会社が受注した工事内容について記述してください。従って、あなたの所属会社が二次下請業者の場合は、発注者名は一次下請業者名となります。なお、あなたの所属が発注機関の場合の発注者名は、所属機関名となります。

(1) 工事名 県道25号線東山本地区配水管布設工事

(2) 工事の内容

①発注者名 埼玉県川口市上下水道局

②工事場所 埼玉県川口市御坂町東山本地内

③工期 令和2年9月25日～令和3年2月28日

④主な工種 土留工、掘削工、配水管布設工

⑤施工量 軽量鋼矢板1型・長さ2.0m・建込み1,040枚、掘削土量250m³、
ダクタイトル鉄管 φ200mm・布設延長L=130m

(3) 工事現場における施工管理上のあなたの立場

工事主任

安全管理
P-5

2級土木実地問題 「安全管理」参考記述例

以下の記述ポイントを参考に、実際に行った施工の記述文を作成して下さい。

(1) 具体的な現場状況と特に留意した技術的課題 (7行)

本工事は、県道23号線東山本地区内の道路の老朽化した配水管を撤去し、新たにダクタイル鋳鉄管Φ200mmを、土被り1.2m、延長130mにわたり施工するものであった。

工事現場は駅周辺の道路で、歩行者及び一般車両の交通量が多かった。また、工事中は片側交互通行で作業するため、道路幅が狭くなり、工事車両と歩行者又は工事車両と一般車両が接触する恐れがあった。

よって、本工事において第三者災害を防止する安全対策が課題となった。

(2) 技術的課題を解決するために検討した項目と検討理由及び検討内容 (9行)

本工事において第三者災害を防止するため、以下の検討を行った。

① 工事中、歩行者や一般車両に工事現場付近での注意を喚起するため、工事予告看板及び安全看板の設置を検討した。

② 工事開始前、工事場所の近隣住民に、工事内容・工事期間・作業時間などを周知する方法を検討した。

③ 掘削作業時において、バックホウの旋回範囲が工事区域からはみ出さないようにするため、バックホウの機種選定を検討した。

④ 工事中は片側交互通行となり、歩道の一部を作業帯として使用しなければならいため、歩行者通路の設置を検討した。

以下の記述ポイントを参考に、実際に行った施工の記述文を作成して下さい。

(3) 技術的課題に対して現場で実施した対応処置とその評価 (9行)

検討の結果、以下の対応処置を行った。

① 工事予告看板を工事250m手前から50m間隔で、安全看板を工事車両の出入口に設置し、歩行者、一般車両及び工事車両に注意を喚起した。

② 工事説明会の開催や工事のお知らせの配付により、近隣住民に工事内容・工事期間等を周知した。

③ 掘削作業は、小旋回型のバックホウを使用し、バックホウ旋回の操作は、オペレーターが目視確認と誘導員の指示の2通りで実施した。

④ 歩行者用の通路は、カラーコーンとバーを使用し、通路幅1.5mを確保した。

以上により、作業員の安全意識も高まり、無事故で工事を完了できた。